

Obstetric Analgesia Case Report

より安全な無痛分娩を目指して

Vol.1

医療法人 慈久会 たかせ産婦人科 **高瀬 規久也** 先生

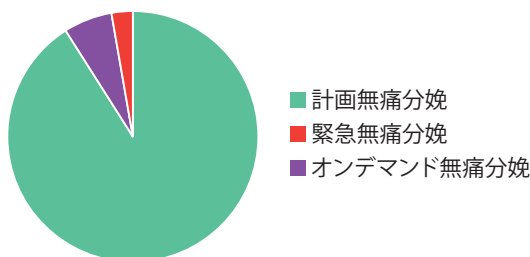
はじめに

当院は大阪府豊中市で2000年より開業している産婦人科医院である。

病床数は12床で、産婦人科医師常勤1名、非常勤7名で運営している。無痛分娩は緊急無痛分娩にはじまり、2011年からは計画無痛分娩を開始、2019年には待機無痛分娩(オンデマンド)も開始した。2023年度までに累計1,348件の無痛分娩を行っており、2023年度の無痛分娩は236件と61%を占めた。

無痛分娩の増加に伴って、2023年度は計画無痛分娩の事前入院(陣痛や破水で入院となる場合)が初産婦41%、経産婦16%あり、時間外対応が増えているために深夜の麻酔導入は行わないこととした。しかし、昨年度希望通りに麻酔ができなかった妊産婦は、初産婦3名、経産婦4名のみであった。

2023年度 無痛分娩の割合



計画無痛分娩：計画的に前日入院の上、陣痛促進剤を用いて陣痛を起こし人工的にお産を始める分娩方法

オンデマンド無痛分娩：陣痛が起こってから麻酔を開始する分娩方法

緊急無痛分娩：無痛分娩を予定していなかったが出産時に希望された方への分娩方法

安全な無痛分娩に対する取り組み

当院では、無痛分娩を円滑かつ安全に行うために、JARA(無痛分娩関係学会団体連絡協議会)に初期より登録し、妊産婦への情報公開に努めてきた。

また、2022年度からは麻酔前診察を全員に行い、加えて問診での既往歴・現病歴の確認、聴診や気道確保を想定した口腔内確認などを行っている。

硬膜外穿刺困難な妊産婦の経験

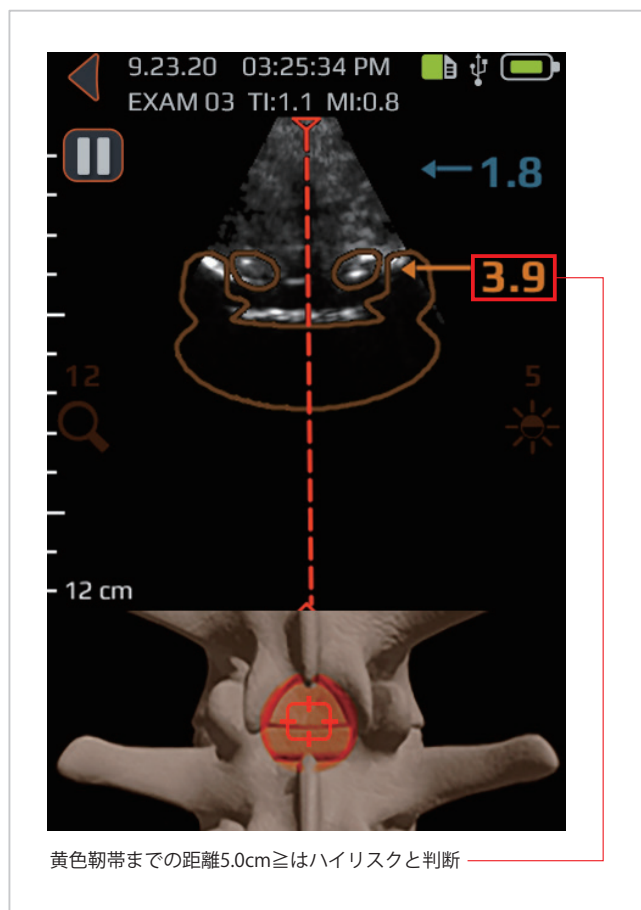
妊産婦の体重増加に伴い椎間が確認しにくくなり、表皮から硬膜外腔までの距離が長くなる場合がある。その距離が長くなることで穿刺角度や穿刺位置によっては麻酔が困難になるケースが見られる。

以前に非常勤の医師が、穿刺困難な妊産婦に硬膜外麻酔を実施した際、硬膜外穿刺に時間がかかった上に硬膜外カテーテルの留置後に痛みが続いた。その後、他施設で硬膜外血種や痛みの評価を行う追加検査が発生し妊産婦に負担をかけるケースが発生した。私自身も過去に硬膜外麻酔の穿刺が困難な、通常の硬膜外針では届かない症例も経験した。

そこで当院では可視化できる超音波エコーを用いた脊椎検査を導入することに至った。

超音波エコーによる脊椎検査

事前の脊椎検査では、超音波エコーにより黄色靭帯までの距離を知ることによって、これらの症例をハイリスクとして除外または、長い硬膜外針を用意するなど事前の準備を行うようにした。BBraun社製の超音波エコー Accuroは表皮から黄色靭帯までの距離を測ることが可能で、事前確認により硬膜外麻酔における穿刺困難例がほぼ無くなった。一般的には、黄色靭帯から硬膜外腔までは0.5cmから1cm程度であるので、黄色靭帯までの距離が5cm以上をハイリスクとしている。



まとめ

2023年度から無痛分娩の評価をバースレビューとして、スタッフと妊産婦と一緒に分娩を振り返り評価を行っている。その結果、妊産婦の麻酔効果についても満足度は97%となった。やはり麻酔導入が順調に行える準備を充分にしておくことは重要で、このためにもAccuroは有用であると実感している。

また、無痛分娩を安全かつ順調に行うためには、スタッフの協力や理解は不可欠だ。そのため、初期の導入期から今日に至るまで、スタッフとの情報の共有を重視して無痛分娩に取り組んできた。陣痛管理を行う通常分娩と無痛分娩とでは助産師の関わり合い方が少し違うものとは私考える。よって、今後は助産師を中心としたチーム力をさらに高めて、妊産婦満足度を上げる努力をしていきたい。

販売名: 超音波診断装置 ACCURO
 認証番号: 229AFBZX00052000
 販売名: ACCURO プローブカバー
 届出番号: 13B1X00218412001

製造販売元

ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-16

カスタマーサービスセンター

TEL 0120-401-741 (フリーダイヤル)

www.bb Braun.jp



Webサイトにも
 最新情報掲載中
 ご活用ください

本ケースレポート掲載品の仕様・形状は、改良等の理由により予告なしに変更することがあります。製品のご使用にあたっては、電子化された添付文書を必ずお読みください。